

特

11月1週の特金スクラップ相場はニッケル系スクラップが上昇した。しゃぶり、新切れなどのウワ物は前月比キロ45円高の1760円あたり。ロンドン金属取引所(LME)ニッケル相場10月平均はほぼ横ばいだったが、為替の大幅円安が市中相場を押し上げた。耐熱鋼はクロムの上昇で大幅に値を上げた。タンクステン系は中国の堅調な精鉱価格が支えとなり続伸。コバルト系も国際相場の上昇と引き合いの回復で上伸した。モリブデン系は横ばいだった。

10月のLMEニッケル現物セツルメント平均は、9月平均比トン均高の1万9420ポンド。月上旬は前月の下落傾向を引きずり一時1万8000ポンドを割り込んだ。しかし、中旬に入ると原油高に伴う電解・製錬コストの上昇や銅の連れ高など上昇要因が台頭。21日に年初来高値の2万530ポンドに達した。下旬は

高。米長期金利の高止まりを背景にドルを買って円を売る動きが加速した。3円近い円安は特金相場を支えた。国内の特金スクラップ需要はミルのフル生産により堅調。ステンレスの安価材料となるニッケル系スクラップは引き合いが強い。だが、高止まりするLME相場により発生元から取り扱い筋へのオフアは高めた。関東地区の特金取り扱いは

特金スクラップ

- ニッケルしゃぶり
 - 〃 新切れ
 - PC-2(Ni78%)
 - PB(Ni45%)
 - 42アロイ(Ni42%)
 - 36アンバー(Ni36%)
 - ニクロム(NCH-1)
 - バイメタル(Ni30%)
 - インコネル(600)
 - モネル(405)
 - キューロ・ニッケル(Ni30%)
 - コバル
 - ステライト(Co50%)
 - モリブデン新切れ(一般品)
 - ハステロイ(A)
 - タンクステン新切れ(一般品)
 - ハイス(SKH-9)
 - 耐熱鋼(SCH-13)
 - 〃 (SCH-21)
 - 純チタン新切れ(一般品)
 - チタン合金(6Al-4V)
 - 雑チタンくず
- (都内問屋持ち込み価格、現金)

「値上りを前提とした価格を提示される」と話す。耐熱鋼は、クロムの上昇と円安により大きく値を上げた。超硬工具向けのタンクステン新切れは1000円高の2360円に上伸した。電子材向けのコバルトはキロ50円高の550円だった。ステンレス・特殊鋼向けのモリブデン新切れは据え置き。

秩父回収資源

働きやすさに着手

高齢化・若者離れに対処



小澤社長

皆野町(小澤通利社長)は従業員の働きやすさに配慮した会社経営に注力する。進行する高齢化や業界の若者離れ対策のために働きやすい職場づくりに着手。社内設備にはさまざまな工夫を凝らし、従業員の労働環境改善を心に手を打ち、従業員の

健康面にも気を配っている。2020年8月に完成した電線からモーターコアなどの複合物までを破碎し、金銀滓などを回収する新工場棟では優れた防音性を実現した。従業員用トイレも清潔に保ち、働く上での快適さを追求する。現在、工場内では若い社員や女性社員も活躍するなど、企業努力が実を結んでいる。同社は1914年に創業。非鉄金属スクラ

ップの総合的なリサイクルを目指し、再資源化された原料を安定的に供給するため再生処理技術を日々磨いてきた。取り扱い品種は銅や黄銅、アルミ、ステンレスなど非鉄金属原料全般。ナゲット事業には61年から取り組む。同社の電線リサイクル工場内に乾式回収ラインと湿式回収ラインの2つのラインを所

雑電線市中相場【11月第1週】

仲間現金(数量1トン以上、持ち込み価格、カッコ内は中心値)

(キロ/円)	東京	大阪	名古屋
銅分45%	▼375 - 385 (380)	▼380 - 390 (385)	▼375 - 385 (380)
銅分43%	▼355 - 365 (360)	▼360 - 370 (365)	▼355 - 365 (360)
銅分40%	▼325 - 335 (330)	▼335 - 345 (340)	▼335 - 345 (340)

アルミ・スクラップ動向

的に買い集めた。

マレーシアは73%減の3554ポンド。雑電線は輸出前のバゼル法事前相談の審査基準が

11月第1週アルミ原料は反落。ロンドン金属取引所(LME)アルミ相場が、9月以降の安値水準

1万ト

減響く

まキロ当たり円)

合計	単価
1,571	942
7,115	717
175	1,000
1,094	602
1,424	713
81	1,001
129	543
49	398
51	949
4,256	764
27	1,009
341	613
2,299	676
25	97
1,037	842
120	334
967	640
104	1,022
177	987
51	404
94	930
34	293
21,238	
(32,935)	
736	
(350)	

7月から被各社に、

9月以降の安値水準

ユース